

議長（黒沢義久君） 次，5番益子慎哉君の発言を許します。

〔5番 益子慎哉君登壇〕

5番（益子慎哉君） 午後お疲れのところと思いますけれども，私の質問時間，そんなに長くないですので，質問を受けられる方はなるべく寝ないようにしてください。よろしく願います。

ただいま議長にお許しをいただきましたので，通告どおり質問をいたします。

まず初めに，1番目に，農道，林道の整備及び維持管理についてお伺いします。

現在，地方では急速な少子高齢化の中で，地域がそれぞれに共同で行われてきた道の維持，管理などができなくなりつつあります。その上，農林業の従事者の減少により，利用できない農林道が耕作放棄地と同様に増えております。多くの農林道は市道でもありますので，市としての対応をお伺いします。

まず，整備状況について質問いたします。合併後農林道の整備計画はどのようになっているのか。合併前の計画の継続だけで新市になっての新しい整備計画はないように思いますが，お伺いいたします。合併前と違い執行部の思い入れの違いの差を感じるのには私だけではないように思いますが，市としてどのようにお考えなのかお聞かせいただきたいと思ひます。

次に，農林道の維持管理についてお伺いします。

地域住民で維持管理のできない農林道がここ数年目立つようになってまいりました。路肩からカヤや雑木などが生い茂り，場所によっては道路の中央が雑木になってしまったり，水害によって路肩が落ちたりして通行不可能な箇所があります。今までに予算をつけて整備してきたこの道をそのまま荒廃した状態で放置するのはいかがなものかと思ひます。農林道は山林や農地を管理していく上で原点だと思ひますが，お伺いします。また，地域によっては林道，農道が生活道に近いものがあります。ですから，農林道の荒廃は集落の荒廃にもつながる問題でもあります。各町会の連携を密にして，農林道の維持管理の徹底を図るべきだと思ひます。市民協働の立場からともに汗を流したりして管理することも大切であり，地域を含めた再生を考えていただきたいと思ひます。

次に，本市の観光の取り組みについて質問いたします。

私は議員になる前に，竜神大吊り橋周辺の観光の活性化について仲間とともに活動してまいりました。現在も後輩が活動しております。水府まつり実行委員会です。この委員会は年4回の四季のイベントの企画，準備，運営や観光客周知のために東京地区の旅行会社やバス会社30社を三，四人のチームを組み，訪問し，PRをし，集客活動をしてまいりました。ですから，観光に対しての熱い気持ちがあります。今でも熱心に活動している仲間感謝しております。四季のイベントの開催中は地域の農家の農産物の販売高は地元経済に十分に貢献しております。その熱い気持ちで質問させていただきます。

まず最初に，今年度の秋に県の観光物産課が企画した，県北地域の海と山を結ぶ周遊臨時バスの運行についてお伺いいたします。この事業は，常磐線磯原駅，高萩駅から花貫溪谷を通り，本市里美地区を抜けて，袋田の滝より水郡線の袋田駅を結ぶ日立電鉄のバスを利用した臨時バスの

運行です。1日2往復の運行で行われました。この事業は、本市は里美地区を通過するだけで企画の時点でも県より話はなく、マスコミに報道されてから知ったと伺っております。前回、観光についても一般質問をしたとき、県、県北の市町村と十分な連携の中で観光を考えていただきたいと要望し、答弁をいただきましたが、実行されてないようではありますが、どのようにこの件をお考えなのかお伺いいたします。

県より話がなくても、十分な連携を図っていれば大子町、高萩市、北茨城市より何らかの情報が入り対応できたと思いますが、この点での考えがありましたら、お答えいただきたいと思います。

次に、ジオパーク構想についてお伺いします。

茨城県は県北と県南を考える場合、地域振興の中で大きな格差が生まれております。県北の地域を大きな自然公園としてとらえ、地質・地形などの県北特有の自然遺産を保全し、生態学的、考古学的、文化遺産を含めた学術的観光旅行を通して、地域発展に活用していこうという考えで、世界ジオパークネットワークの基準をクリアしていく構想であります。この構想は、これからの市の観光振興に重要なものであると思います。この構想について本市の取り組みと考えについてお伺いします。

最後に、常陸太田観光物産協会についてお伺いします。

本年度、4地区の観光協会が1つになり常陸太田観光物産協会が設立されました。また、本市としては新しい取り組みとして、全国からの公募により事務局長が採用されました。この組織は独立した団体であると思います。観光協会の中の理事会、総会によって意思決定がなされ、運営なされるべきだと思います。しかし、現実には、市産業部の力強い考えのもとに動いているように思います。また、12月は次年度の予算編成時期でもあるのに、理事会も開かれず、事業計画案もなしに、市の補助金を決定、支給していくようではありますが、市の基本となるお考えをお伺いいたします。

また、公募により採用されました事務局長であります。いろいろな地域や立場の経験があり、今までの本市の観光の考え方とは違う新しい考えを取り入れるために採用なされたと思いますが、本来の仕事ができていく環境にあるように見えますが、市としてどのようにサポートしていくのか、お伺いいたします。現在、事務局2名で対応しておりますが、人員についても増員の考えがあるのかお伺いいたします。公募で選ばれた事務局長の能力を十分引き出せるような体制づくりを含めてお考えを伺いたいと思います。

以上で1回目の質問を終わりにします。よろしく申し上げます。

議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。産業部長。

〔産業部長 赤須一夫君登壇〕

産業部長（赤須一夫君） 初めに、農道、林道の問題についてご答弁申し上げます。

ご質問の農道、林道の整備及び維持管理についてでありますけれども、第1点目の合併後の整備状況といたしましては、現在、旧3地域の過疎地域自立促進計画を引き継いだ常陸太田市過疎地域自立促進計画に基づき、農道8路線、林道7路線について行っているものであります。

まず、農道の整備状況といたしましては、現時点において、3路線については既に完了しております、事業主体が茨城県の県北東部地区広域営農整備事業並びにふるさと農道の2路線については現在継続実施中であります。このふるさと農道につきましては昨年度路線の計画変更を行い、変更ルートにより整備を行っております。なお、残り3路線につきましては地権者の同意が得られないため、事業を実施しないことで地元の方々と協議済みとなっております。

次に、林道の整備状況といたしましては、現時点において既に完了済みが2路線、1路線が本年度完了予定となっております、事業主体が茨城県の奥久慈グリーンラインについては、現在継続実施中となっております。なお、事業主体が市の残り3路線の1路線につきましては、費用対効果の面から未実施と決定し、地元への通知済みとなっております、1路線については一部完了をしておりますが、地権者との協議が整わず滞っている状況であります。もう1路線につきましては、計画時点において、路線全部の関係者への説明がなされておらず未実施となっております。つきましては、最後に申しあげました2路線については再度地元の方々と協議を実施し、その方向性を明確にする必要があるものと考えております。

2つ目の農道、林道の管理につきましては、4地区それぞれの地元地権者等から町会長を通して、農政課及び3地区の産業観光課に補修あるいは材料支給の要望があり、それを踏まえましてそれぞれの地区で現地踏査を行い、結果により必要な材料を支給し、地元の方々の共同作業等により補修を行っていただいております。なお、大規模なものは、危険を伴うものについては、それぞれの地区担当で地元建設業者に依頼し補修を行っているものであります。

また、特に林道の整備につきましては、4地区またはそれぞれの集落を結ぶ路線は市道としての認定も視野に入れ、整備に有利な整備方法等を見きわめながら市全体の道路整備の計画を位置づける道路整備審議会において審査を受け、決定してまいりたいと考えております。なお、簡易な補修については従来と同様な材料支給により実施してまいります。

続きまして、今回の県北周遊バスの共同運行についてのご質問にお答えいたします。

県北には豊かな観光資源がありながら、常磐線と水郡線を結ぶ交通手段がなかったことから、県北観光の活性化を図るために、茨城県観光物産課が主体となりまして、この間をバスで結ぶルートを設定、実施したものであります。県としても初の試みであったため、事業の効果に予測がつかなかったことから、立ち寄り箇所での滞在時間を長くすることや可能な限りの運行時間を短くすることなどを考慮しまして、運行のルートが決定されたとのことであります。次年度の事業におきましては、今回の周遊バスの乗車状況等の結果を踏まえまして、常陸太田市 - 大子間の運行につきましても計画に取り入れられるよう県観光物産課及び大子町とも協議しているところでございます。

次に、県との連携及び反省を踏まえて、どう対応するのかとのことでございますが、今回の県北周遊の運行につきましては、茨城県におきまして、緊急の対策として海側と山側の出発地点、到達地点との協議により実施されたものであります。事業実施の情報を得てすぐに県に対しまして、市内を通過するに先立ち、立ち寄り場所になっていないことやトイレ休憩の立ち寄りでも設定してほしい旨を申し入れましたが、既にバス運行の諸手続が済んでおり変更できないとのこ

とでしたので、車中に里美かかし祭等の市内イベントのチラシを置いていただくことをお願いしてPRを行うなど、応急に対処、対応をいたしました。今回の経過を深く反省をいたしまして、積極的に県及び周囲の市町村に対し、情報の聴取を行うとともに、本市から県や隣接市町村への事業提案などを行うなどして、さらなる協力、連携が図られるよう努めてまいります。さらに、本庁機能が発揮しているような組織になっていないのではとのことですが、それぞれの地区の特徴ある事業に取り組んでまいりましたが、本庁機能の発揮が十分でなかったことは否めないところであります。こうした面につきましても、一層努力をしてまいりたいと考えております。

次に、常陸太田市観光物産協会についてのご質問にお答えいたします。

初めに、観光物産協会の組織運営と意思決定についてのご質問でございますが、事業及び予算につきましても意思決定は総会及び理事会が行います。事業の執行については観光物産協会の役員、会員が行うものです。また、来年度の予算につきましては、観光物産協会の来年度事業計画により市と協議の上、補助金として予算措置されるものであります。さらに、観光物産協会事務局長の活動についてのご質問でございますが、事務局長におきましては、これまで地域現状の把握や関係者へのヒアリングのほか、各種観光資源やイベントに関する調査を行い、今後観光物産協会が取り組むべき事業計画を作成しているところでございます。観光物産協会は行政とは密接に関係を持ちながらも独立した団体であり、事務局長はその団体を運営するかなめとなる人材でありますから、その活動は、総会及び理事会において決定された事業の範囲において活動できるものであります。

また、当初計画以外の活動につきましても、必要に応じまして理事会において協議することにより可能でありますから、事務局長が観光物産協会の運営に関して必要と判断することにつきましては積極的に活動することができるものでございます。市といたしましても、観光物産協会の事業実施に関しましては適宜サポートを行っておりますので、今後とも観光物産協会との連携を密にし、本市観光振興に努めてまいりたいと考えているところでございます。

議長（黒沢義久君） 教育長。

〔教育長 中原一博君登壇〕

教育長（中原一博君） ジオパーク構想についてのご質問にお答えいたします。

茨城県北ジオパーク構想は県北の貴重な地質や地形のほか、地域の歴史、自然、文化遺産などを地質的視点から資源としてとらえ、その価値を高めながら幾つかの資源を結ぶ観光ルートの設定や案内人の育成を行い、県北地域の観光振興を目指そうとするものでございます。

去る10月14日、茨城大学が主催する茨城県北ジオパーク懇談会が開催され、茨城大学と常陸太田市を初めとする那珂川以北の9自治体が、日本ジオパーク認定を目指して連携することが確認されております。今後はジオパーク構想の実現に向け、今年度中に事業の推進母体である茨城県北ジオパーク推進協議会が設置される予定でございますが、協議会の下部組織として茨城大学、関係自治体、茨城県、市民団体、研究機関で構成される運営委員会が置かれ、その委員会で具体的な事業内容を検討していく予定となっております。本市にはジオパーク構想に合致する地形、地質を初めとする価値の高い豊かな自然資源や文化財等がたくさんございますので、この構

想を当市において現在進めておりますエコミュージアム活動の一環としてとらえ、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

議長（黒沢義久君） 5番益子慎哉君。

〔5番 益子慎哉君登壇〕

5番（益子慎哉君） 2回目の質問をさせていただきます。

農林道の整備についてであります。新しい路線の要望計画がないとのことですが、新市になって急になくなったのかなと言うよりは、予算がつかないということで地域から出にくくなっているかなということとっておりますが、先ほどの深谷議員さんの答弁でもあったように、事業仕分けで農道の整備補助金は廃止ということもありましたけれども、ぜひとも、国、県のいろいろな補助を探していただき、本市内で年に一、二本の計画、整備を図られることを要望します。

次に、農林道の維持管理についてであります。実際に現場を見ていただき、その上で現状を把握してもらいたいと思います。特に、生活道に準じるような農林道はすべて現状を調査し、地域とともに維持管理を考えていただきたいと思います。要望いたします。

次に、本市の観光の取り組みについてであります。調整の段階でも反省という気持ちがないんじゃないかなというのを何度も言っていました。先ほどの答弁で、反省しているというようなことでした。前から、やっぱり県とかいろいろな、今回もその質問で調査をしますと、常陸太田市の観光とかその辺の窓口というのが、本所と支所と別れてしまっている。本所を通して話を出しているんだけど、答えは支所から返ってくることも多い。ただ支所は本所の結論が出ないとなかなか答えられないというか、できないということで大変複雑な形になっていて、すんなりと県の話とかそんなのが届いていないんじゃないかというのが、県のほうの話でも出ているようです。きちっとその辺を、意思決定とかその辺を見きわめて今後取り組んでいただきたいと思います。

また、私は水府地区の議員ということで、竜神大吊り橋に臨時バスを入れなかったのかってとらえているようですが、私は市内の観光、ほかにもたくさんあると思います。せめて通過する、先ほど答えもあったという、里美の直売所で10分か15分のトイレ休憩ぐらい入れられないのかという。そうすればかなりそれなりの経済効果をもたらしたんだと、そういう強いつながりというのを県と持っていただきたいと思います、そう思います。

次、ジオパーク構想について、教育長さんから前向きな答弁ありました。私は観光からどうなんだと。要するに、産業部からどうなんだということを質問したんですけども、教育長さんの答えで大体理解しました。

最後に、市長に2点お伺いします。

まず1つは、今回の一般質問、調査、調整して、やっぱり農政課、商工観光課の本所の課長の立場、職務と支所の産業観光課の立場、職務であります。それぞれの考えはあります。本所の課長さんは業務的には、常陸太田市の旧太田地区の職務と市全体との両方を見なくてはならないことが多く、その分支所のことには支所任せになったり、責任を押し付けがちになっている傾向があると思います。部長がそれをやるという考えがありますが、それぞれの課の範囲で市全体を見る

ポジションが必要であると思います。機構改革，支所機能の充実ということを考える中でこれからのように考えていくのかというのをちょっとお伺いします。

2つ目は，観光物産協会のあり方です。市と密接な関係は当然必要であると思いますが，しかし独立性を持たさなければいけないと思います。先ほどの答弁では，言葉ではそのような答えになっていたかもしれませんが，実際は違うと思います。設立後，正副会長の会議や理事会もないのです。市役所の中での動きだけです。市長は観光物産協会の会長でもあります。次年度の計画の方針の素案とかを正副会長で決めていただくこととか，それを予算に，補助金に結びつけていただいたり，また，公募によって採用された事務局長の能力を十分に引き出せるような体制をつくっていただきたいと思いますが，その辺について市長にお答えいただきたいと思います。

以上で2回目の質問を終わりにします。

議長（黒沢義久君） 答弁を求めます。市長。

〔市長 大久保太一君登壇〕

市長（大久保太一君） 初めに，産業部関係の本所，支所の業務に関しての考え方，お尋ねがございました。

産業部関係の業務につきましては，非常に内容が多岐にわたっているという背景もありまして，なかなか部としてのきちっとした連携がとれていない面も見受けられるところであります。考え方としては，まずは大きなイベントあるいは事業等については，部長のもとにその業務を統括すべきであります。そして，その事業の中身を見た上で担当部署をきちっと指示していくというのが仕事の，マネジメントのあり方でありまして，そのことを再度徹底していきたいと思えます。また，あわせまして，支所の機能の中で，今言った産業観光だけではなく，それぞれの支所の担当する地域についての活力を生むためとか，さまざまなアイデア，あるいは企画をする必要も出てきております。そういうことで，まだ決定をしているわけではありませんが，各支所の総務課にそういう企画立案の業務といたしますか，そういう機能も持たせて今後進めていきたい，そんなふうにも今考えているところであります。

2点目の観光物産協会についてであります，組織的には，今4地区の観光物産協会が一本になりましたけれども，これまでのそれぞれのいわゆる支部の動きにつきましては，行政の職員が観光協会の事務局をすべて務めてきているという背景がありまして，なかなか観光物産協会が1つになって，事務局長がいて，まだ1人しかもとの職員はおりませんけれども，その中で，全体の動きをどう見ていくのか。仕事の進め方においては，やはりその会長，副会長だけではなく，理事会においてその事業のあるべき方向性等をきちっと定めた上で，会員の方もお骨折りをいただきながら，それぞれの事業を進めていく必要があるだろう，そういうふうに思います。

今まで，行政の職員が担当していたイベントの企画から運営等について，それを物産協会の職員がやるということになれば，そっくり今までかかっていたような人が行くこととなります。そうではないだろうというふうに私は考えておりまして，先ほど言ったような会員の方，あるいは理事の方にも汗を一緒になって流していただく必要がある，そういう方向へ持っていくべきだろうと思うところであります。なお，予算の時期ということでもありますけれども，なかなか事務局

長としての個人的な考えといえますか、そういうことと物産協会とのあり方、そういうところにも意見の乖離も今、出てきている、そういう状況であります。よく調整をとりながら、よりよい観光物産協会に仕立て上げていきたい、そう思っております。